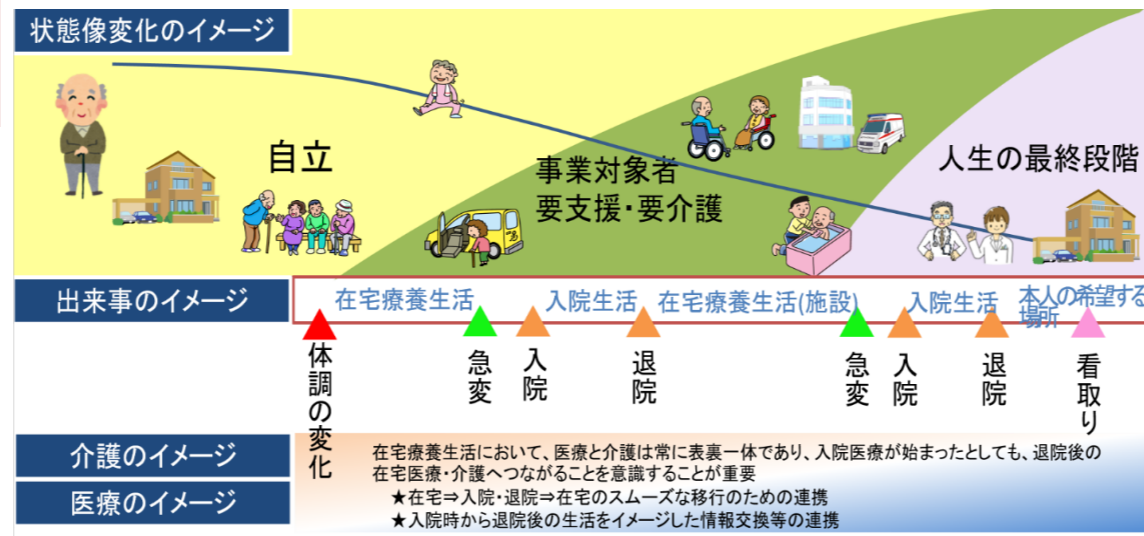


～湖西市の目指す姿～
『湖西であんきに暮らすまい』

【4つの場面ごとのPDCAサイクル】



①日常の療養支援の場面の考え方

めざすべき姿	医療・介護関係者の多職種協働によって患者・利用者・家族の日常の療養生活を支援することで、医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が住み慣れた場所で生活を継続できる。			アウトカム
めざすべき姿であるために必要なこと	現状	現状分析・課題抽出	具体的施策	
在宅の療養生活を支える地域の資源の把握	○在宅訪問を行う歯科診療所: 14診療所 75歳以上人口1000人あたり1.44	・訪問診療を行う体制を整えている医院は多いが実際に訪問する歯科医院はほぼ決まっている現状がある	・歯科医師会に未加入の歯科医院が訪問診療を開始	○介護認定率が上がらない又は横ばい又増加率を緩やかに・・・ :介護認定率 ○介護離職者が減る(要介護認定者):主介護者離職率 ○シズケア加入数が増える(連携ツールの活用) (介護予防に力を入れ、新規介護認定率が増えていかない⇔認定を受けていない元気高齢者の増加) (★9/10) 医師会主催 東海北陸在宅医療推進フォーラム基調講演にて →在宅維持継続の可否(継続率)→介護家族の就業継続可否(継続率)をアウトカム指標として見ていべきとの提言あり。 ○在宅医療に取り組む機関が増える(医療機関・訪問看護・訪問薬剤・訪問リハ等々) ○湖西市内で訪問診療希望に対応できる環境ができる:訪問診療自給率
	○在宅訪問を行う薬局: 16薬局 75歳以上人口1000人あたり1.65	・院外薬局のない地域がある	・院内処方や他の薬局との連携がとれている	
	○三次救急を含む大規模病院、大学病院は市外にある。	・薬剤師の在宅医療への参入が困難(開設時間内は薬剤師がいることが必須にて、複数人いる薬局もしくは時間外活動する薬局しか参入できない) ・重症患者に対応できる病院がない(脳出血等) ・搬送先が見つからない		
	○地域連携型認知症疾患医療センター(隣市の中核市)がなく1時間近くかかる磐田市のセンターが管轄である。	・専門医(精神・認知等)がおらず、受診まで1時間近くかかり、予約にも3か月近く待つこともある	・4包括に認知症初期集中チーム、認知症地域支援推進員が配置され、認知症サポート医やかかりつけ医と連携 ・専門医はいないが、市立湖西病院の総合内科や浜名病院の脳神経外科にて認知症の受診が可能	
	○病院勤務医及び看護師等不足あり、湖西病院病床は実質106床の稼働。 ◎県界に位置する市にて県外の入院医療を利用することも多い	・市立湖西病院医療従事者不足により、病棟閉鎖や外来対応にも支障をきたしている。	・院内にて対応検討中 ・浜松医療センターと湖西病院が連携協定を締結 ・市内2病院でできることできないことを洗い出し連携協定を締結	
在宅療養患者が必要な医療と介護が身近なところで受けられるサービス提供体制	○診療所: 28診療所 ○在宅療養支援診療所: 2診療所 75歳以上人口1000人あたり0.21 ○訪問診療を行う診療所: 9診療所 75歳以上人口1000人あたり1.13	・在宅医療を支える支援体制医がなく、参入する医療機関の負担が大きい(機材・時間等)	・在宅支援診療所が2か所になった ・医師会未加入の医療機関が訪問診療を開始	
必要とした時に、すぐに医療機関への受診・搬送ができるバックアップ体制	○昼間は利用できる介護タクシーがある夜間利用できる介護タクシーがない	・介護タクシーが不足し受診等が困難になっている		
多職種での連携し情報共有が必要	○情報連携ツール(シズケア)登録(市内27/140施設)R5年3月末時点	・情報共有システム(シズケアかけはし)の市内関係機関の登録及び利用率が低い	・シズケアかけはしの登録・利用の周知の啓発 ・連携支援センターのたよりにて連携に必要な記事を掲載 ・「見守り機能」が追加され活用準備中	
		・市の体制として包括的に医療と介護を考えるとところがない。困ったところがやる又は応急的対応となっている。 ・市外の病院や診療所、介護施設との連携が整っていない	・シズケアかけはし等の情報連携ツールを活用した情報共有の推進	

②入退院支援の場面の考え方

めざすべき姿	入院時に医療機関、介護事業所などが連携・情報共有を行うことで、一体的でスムーズな医療・介護サービスが提供され、本人が希望する日常生活を過ごせるようにする。			アウトカム
めざすべき姿であるために必要なこと	現状	現状分析・課題抽出	施策	
入院時に介護事業所等から患者・利用者の日常状態や在宅療養の状況を共有				

③緊急時の対応の場面の考え方

めざすべき姿	医療と介護、救急が連携することにより、本人の意思を尊重したうえで急変時に適切な対応ができるようにする。			アウトカム
めざすべき姿であるために必要なこと	現状	現状分析・課題抽出	施策	
急変時の医療、支援体制の確立		・消防との連携(ACPを含めた)が取れていない		
		・市の体制として包括的に医療と介護を考えるとところがない。困ったところがやる又は応急的対応となっている。		

④見取りの場面の考え方

めざすべき姿	人生の最終段階に出現する症状に対する不安や医療・ケア在り方について理解することで、本人が望む場所において、最期まで安心して過ごせるように支援する。			アウトカム
めざすべき姿であるために必要なこと	現状	現状分析・課題抽出	施策	